

令和6年度 人口減少社会対策特別委員会 視察報告書

1 視察日

令和6年11月20日（水）～21日（木）

2 参加委員

委員長 本城文夫、副委員長 滝澤陽一

委員 熊倉隆将、牧井邦生、伊崎博幸、安田佳世、平良木哲也

3 視察先等

月 日	視察先	調査事項
11月21日（木）	福島県南相馬市	人口減少対策を目的とした結婚・妊娠・出産・子育てに対する支援について

4 説明を受けた内容

南相馬市では「ベビーファースト宣言」を行っており、3つの無料化を実施している。

- ① 幼保から中学校までの給食費無料 予算 2億2,545万円
- ② 幼稚園・保育園等の保育料 無料 予算 3,936万円
- ③ 18歳までの医療費無料 予算 1億2,010万円

出生数の成果としては以下の通りとなっている。

	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
南相馬市	284人	307人	284人	269人	272人
前年比	-	+8.0	-7.4	-5.2	+1.1
福島県	11,552人	11,215人	10,649人	9,709人	9,019人
前年比	-	-2.9	-5.0	-8.8	-7.1
全国	865,239人	840,835人	811,622人	770,747人	727,277人
前年比	-	-2.8	-3.4	-5.0	-5.6

5 参加議員の所感

- ・ 2024年11月21日人口減少社会対策特別委員会の視察で福島県南相馬市の市役所を訪問し、副市長や職員の方々から南相馬市が取り組む人口減少対策について説明を受けた。その中で特に印象的であったのは、副市長の「まずは常識を疑うところから始める」という言葉である。この一言には、現状を打破するために柔軟な発想が不可欠であるというメッセージが込められていると感じた。
- ・ また、副市長が「リスクと成果を天秤にかける必要があるが、なんでもダメと言うのではなく、行政がチャレンジする姿を見守ってほしい」と語ったことも心に残った。行政として新たな試みに挑戦し、その成果を市民と共有していく姿勢は、地方自治体にとって重要なことであると考えている。

- 南相馬市の取り組みの中で特に注目したのは、人口減少や子育て分野において、効果的に可視化されたPRツールを活用している点である。例えば、動画やパネルを通じて、取り組みの内容や理念をわかりやすく伝える工夫がなされていた。このような手法は、上越市においても参考にできると感じた。
- さらに、南相馬市では「子育ての理念条例」が制定されている。この条例の具体的な効果については、今後の検証が必要であるが、市民の子育てへの意識醸成や、他地域へのPR効果という面で一定の成果が期待できるのではないかと考える。こうした取り組みは、上越市においても市民の共感を得るとともに、上越市の魅力を発信する有力なツールとなり得るのではないかと考える。
- 南相馬市での経験を通じて、上越市においても新たな挑戦を続けていくことが必要であると改めて実感した。柔軟な発想と市民との協働を基盤に、未来を共に創造する取り組みを進めていきたいと考えている。
- 人口減少は震災の影響を受けての危機であり、差し引きでは人口が減っているものの、南相馬市への帰還者なのか年々移住者が大幅に増えている数値もある。南相馬市の数値は簡単には上越市と比較できないと思った。
- まちづくりと絡めて少子化対策を進める南相馬市の事例は、先進地として非常に有益だった。今後の委員会の議論の出発点として最適な機会だったと思う。

